

全国社会福祉教育セミナー2021

主催：  日本ソーシャルワーク教育学校連盟
JAPANESE ASSOCIATION FOR SOCIAL WORK EDUCATION

テーマ

無関心が生む不正義と不誠実を 乗り越えるソーシャルワーク教育

～鋭敏かつ感性豊かな「想像」と「創造」の力をいかに育むか～

現在のわが国におけるソーシャルワーク教育は、図らずも未曾有の災害レベルとなったコロナ禍と、それに伴う様々な福祉課題の増大や深刻化の嵐の中にある。貧困や孤立、差別や排除、分断等の問題に対する「無関心」はソーシャルワークには決して許されず、あらためてソーシャルワークとは、「社会正義」の実現のために、「誠実さ」をもった実践でなければならない。そしてこのような状況にあるからこそ、私たちは一層の創意工夫を図り、豊かで質の高いソーシャルワーク教育の歩みを止めてはいけない。求められるのは、鋭敏かつ感性豊かな「想像」と「創造」の力を育むソーシャルワーク教育とソーシャルワーカー養成である。

今回の全国社会福祉教育セミナーでは、以上の趣旨のもとで、福祉士養成新カリキュラムが目指すもの、及び講義-実習-演習の学習循環などの意義や重要性を再度捉え直したい。具体的には、「実習・実習指導」「演習」「ICTの活用」「災害とソーシャルワーク・事業継続計画(BCP)」を取り上げるほか、「潜在化する福祉課題」へのアプローチにも焦点をあてて議論を行う。新カリキュラムの内容にとどまらない、これからのソーシャルワーク教育のあり方について、参加者とともに学び直し、考えることで、今のこの逆境をチャンスに変える機会としたい。

オンライン開催 (ZOOM・ウェビナー)

開催日：2021年11月27日(土)、28日(日)

参加定員：1,000名

参加費：8,000円

※学生に限り 参加費 2,000円

教員・学生・福祉従事者
福祉利用者・一般の方等、
どなたでもご参加いただけます。

お申込先：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟

以下 URL より、本セミナーの詳細をご確認いただけます。

セミナーHP：<http://jaswe.jp/seminar/index.html>

お申込フォーム：<https://pro.form-mailer.jp/fms/6e687821236476>

お申込はこちら→



11月27日(土)

時間	プログラム
9:15～ 9:30	オープニング
9:30～10:40	[講演] 「ひとりにしない」という支援－伴走型支援とは何か－ 講師：奥田 知志 氏（特定非営利活動法人 抱樸 理事長）
10:40～10:50	休憩
10:50～11:20	[行政説明] 令和元年度社会福祉士養成課程における教育内容の見直しについて ～地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーク実践能力の習得を目指して～ 報告：道念 由紀 氏（厚生労働省 社会・援護局 総務課 地域福祉課 地域共生社会推進室 併任 社会福祉専門官）
11:20～12:20	[総論] ソーシャルワーク教育の新時代 ～「講義－演習－実習の循環」と「シン・ソ ーシャルワーク教育論」の展開～ 新カリキュラムの特徴を踏まえ、これからのソーシャルワーク教育とソーシャルワーク専門職養成のあり方を考え、各論としてのセッションにつなげていく。 空閑 浩人（同志社大学・日本ソーシャルワーク教育学校連盟 常務理事）
12:20～13:15	昼食休憩
13:15～14:45	[セッション1] 実習におけるメゾ・マクロ実践への無関心を乗り越える～2 か所以上・240 時間での網羅的な実習をどのような枠組みで実施するか～ 今回のカリキュラム改正により、社会福祉士・精神保健福祉士養成における実習はともに「ソーシャルワーク実習」となり、特に社会福祉士新カリキュラムでは時間数や内容が変更された。私たちは「メゾ・マクロ実践に関する学び」「2 か所以上・240 時間」「地域における分野横断的・業種横断的な関係形成」などについて、どのように取り組んでいけばいいのか？地域共生社会の実現に向けて活躍できるソーシャルワーク専門職を養成するため、教員が実習指導者・実習生と協働しながら、これからのソーシャルワーク実習をどう作り上げていくべきかを考えたい。 発題者：畑 亮輔（北星学園大学）/中村 卓治（広島文教大学） 指定討論者：高良 麻子（法政大学）/コーディネーター：渡辺 裕一（武蔵野大学）
14:45～15:00	休憩
15:00～16:30	[セッション2] 新カリキュラムにおける演習教育～地域に潜み存在する問題に“関心”を持つ ソーシャルワーカーを養成するために演習でどのような創意と工夫ができるか～ ある状況がソーシャルワークの対象であるとみなすかどうかは、その関心の有無やあり方による。ソーシャルワーク専門職において、貧困や孤立、差別や排除、分断等の問題に対する「無関心」はソーシャルワークには決して許されない。本セッションは、「2020 年度版 ソーシャルワーク演習のための教育ガイドライン」の共有と、「地域を基盤としたソーシャルワーク実践」という課題をどのように演習で教授するかを土台にしながら、地域に潜み存在する社会問題や生活問題に「関心」を向け、「みる」「考える」ソーシャルワーク専門職を養成するために、演習でどのような創意と工夫ができるかを皆さんと考えたい。 登壇者：保正 友子（日本福祉大学）/行實 志都子（神奈川県立保健福祉大学） 渡辺 晴子（広島国際大学）/コーディネーター：藏野 ともみ（大妻女子大学）
16:30	終了

11月28日(日)

時間

プログラム

10:00～12:30	<p>[セッション3] 災害が起きて、私たちは養成教育を止めない！ 参加者とともに考え/創造していく未来</p> <p>昨年度、突如見舞われたコロナ禍。私たちはオンライン講義や実習方法の検討や実習先確保、学生への支援などに直面し、様々なものを活用し、連携して養成を途切れさせないために走り続けた。地震や台風、大雨などの災害も頻発している。しかし、たとえどんな災害が起きて「私たちは養成教育を止めない！」これまでを振り返り、これからの養成教育について一緒に考えたい。</p> <p>報告者：坂本 毅啓（北九州市立大学）/渡辺 裕一（武蔵野大学） 茶屋道 拓哉（鹿児島国際大学）/秋山 雅代（日本福祉教育専門学校） 篠原 辰二（一般社団法人 Wellbe Design）/山本 克彦（日本福祉大学）</p> <p>コーディネーター：中村 和彦（北星学園大学・日本ソーシャルワーク教育学校連盟 副会長）</p>
12:30～13:30	昼食休憩
13:30～15:00	<p>[セッション4] コロナ禍が炙り出すグローバル化した地域とソーシャルワーク</p> <p>ソーシャルワーカーの倫理綱領が「すべての人が人間としての尊厳を有し…」と謳うとおり、ソーシャルワークはすべての人を対象としている。しかしグローバル化した日本の各地域で日々の暮らしや生活課題と向き合うソーシャルワークが無意識に対象を周縁化していないか。このセッションでは、日本の社会福祉（ソーシャルワーク）が無関心のままに放置してきた不誠実な現実を直視し、ソーシャルワーク教育へ問題提起する。</p> <p>登壇者：佐々木 綾子（千葉大学）/石川 美絵子（社会福祉法人日本国際社会事業団） 指定発言者：木下 大生（武蔵野大学）/長廻 芳行（一般社団法人島根県社会福祉士会） 空閑 浩人（同志社大学）</p> <p>コーディネーター：松尾 加奈（淑徳大学アジア国際社会福祉研究所）</p>
15:00～15:30	<p>[総括] —2日間の学びをこれからの養成教育に活かす—</p> <p>松本 すみ子（東京国際大学・日本ソーシャルワーク教育学校連盟 常務理事）</p>
15:30～15:45	クロージング

第50回 記念企画あり！

詳細は追って掲載します。
お楽しみに！



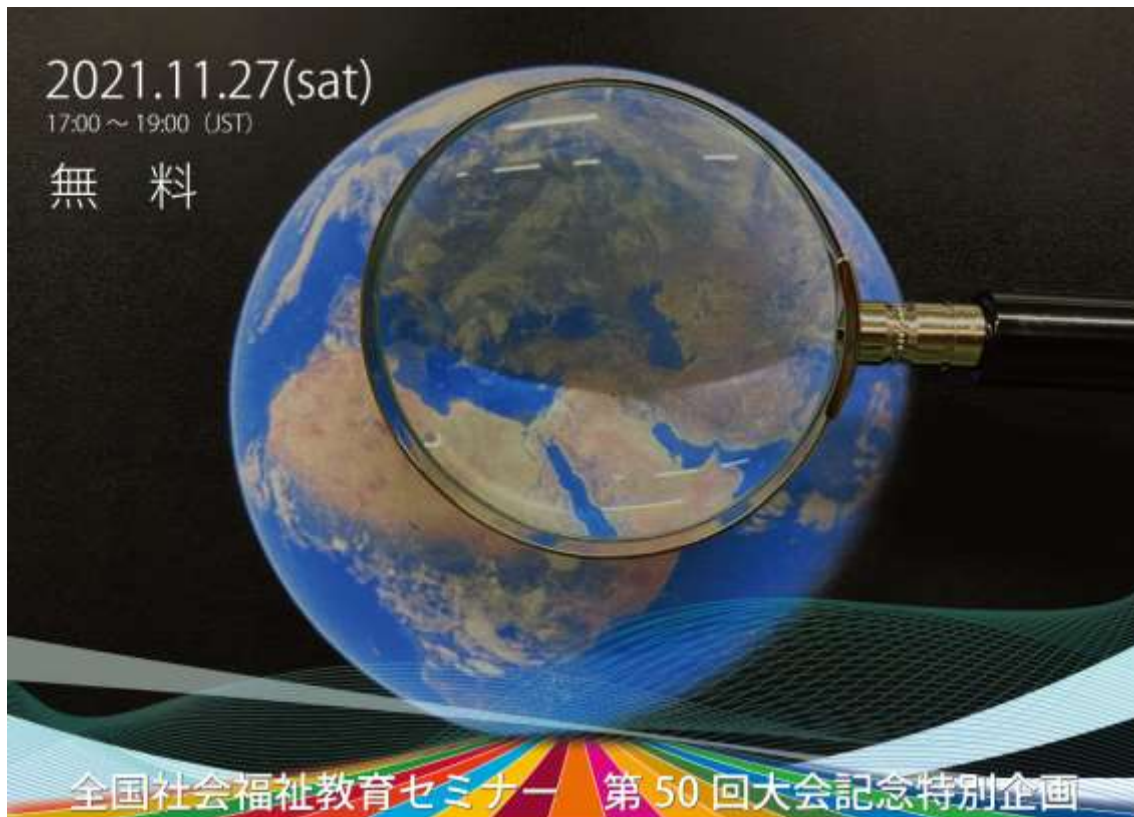
後援（順不同）

厚生労働省、文部科学省、法務省

全国社会福祉協議会、全国社会福祉法人経営者協議会、福祉系大学経営者協議会、日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、
日本医療ソーシャルワーカー協会、日本ソーシャルワーカー協会、日本介護福祉士養成施設協会、日本介護福祉士会、全国福祉高等学校長会、
認定社会福祉士認証・認定機構、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、ソーシャルケアサービス研究協議会、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所

全国セミナー
参加者特典！

☆1 日目のプログラム終了後、こちらの企画に無料で参加できます！（別途申込必要）



国際ソーシャルワーク教育シンポジウム (On-line)

『危機の時代におけるソーシャルワーク教育』 ～グローバルな視点から～

全世界に広がった新型コロナウイルスのパンデミックは、ソーシャルワーク教育と実践に多大な影響を及ぼしています。新型コロナウイルスは、これまで以上に、私たちの暮らしがグローバルな結びつきによって支えられていることを示すと同時に、グローバル化する課題に対して、グローバルな相互理解と連携の必要性を提起しています。本シンポジウムは、こうした状況をふまえ、世界および各地域がコロナ禍で直面したソーシャルワーク教育・実践の困難や挑戦、そしてその克服の過程ですすむ革新を、グローバルおよびローカル（グローバル）な視点から考えます。

シンポジスト



タン・ノ・ティオン
(Tan Ngoh Tiong)

シンガポール社会科学大学教授、
IASSW 財務担当理事、元国際ソ
シヤルワーカ一連盟副会長
「グローバルイゼーション、社会変容
とソーシャルワーク教育の未来」



ミカエル・ウォレングレン-リンチ
(Michael Wallengren-Lynch)

スウェーデン・マルメ大学講師、
IASSW 国際ソーシャルワーク教育調
査委員
「コロナ禍におけるソーシャルワ
ーク教育者の経験～IASSW 国際調査の
結果から～」



テレサ・フランチェスカ
ベルトッティ
(Teresa Francesca Bertotti)

イタリア・トレント大学准教授・前
欧州ソーシャルワーク学校連盟会長
「欧州におけるソーシャルワーク教
育と今後の挑戦」



和気純子
(Junko Wake)

東京都立大学教授、IASSW 日本代表
理事、日本ソーシャルワーク教育学
校連盟副会長
「コロナ禍における日本のソシヤ
ルワーク教育～ソ教連による調査を
通して～」

コメンテーター

白澤政和
(Masakazu Shirasawa)

医療医療福祉大学大学院教授
日本ソーシャルワーク教育学校
連盟会長

司会/モデレーター

ヴィラーグ・ヴィクトル
(Viktor Virag)

長崎国際大学講師
アジア太平洋ソーシャルワーク
教育連盟理事

※申込方法・詳細は随時、ソ教連 HP 等にてお知らせいたします。